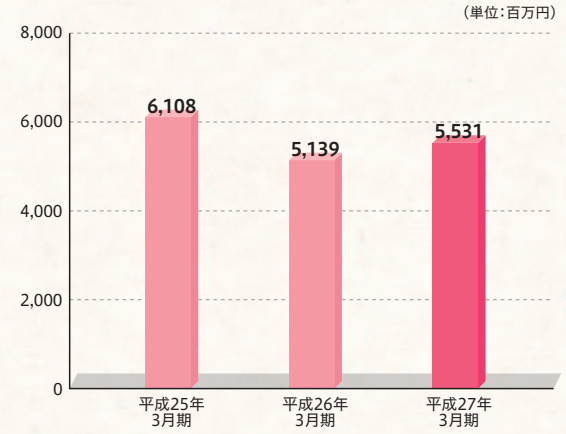
業績ハイライト（単体）

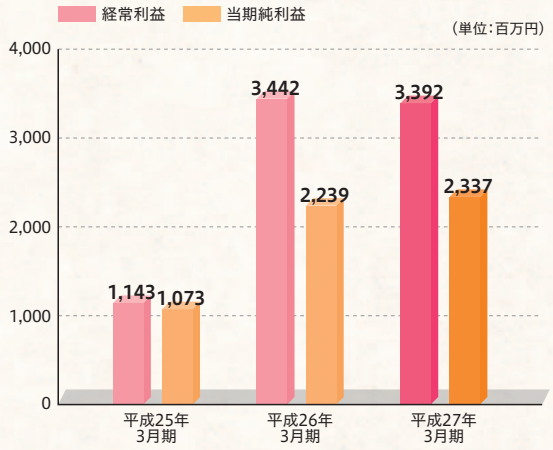
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が増加したことや、経費削減に努めたことで物件費が減少したことなどから前年同期比3億92百万円増加の55億31百万円（増減率7.6%）となりました。



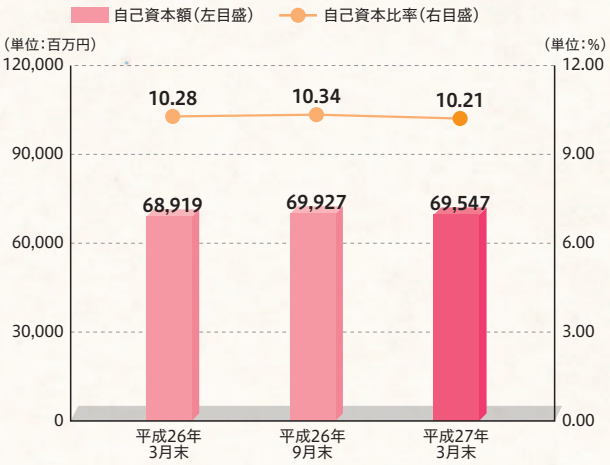
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は前年同期比50百万円減少の33億92百万円、当期純利益は前年同期比97百万円増加の23億37百万円となりました。



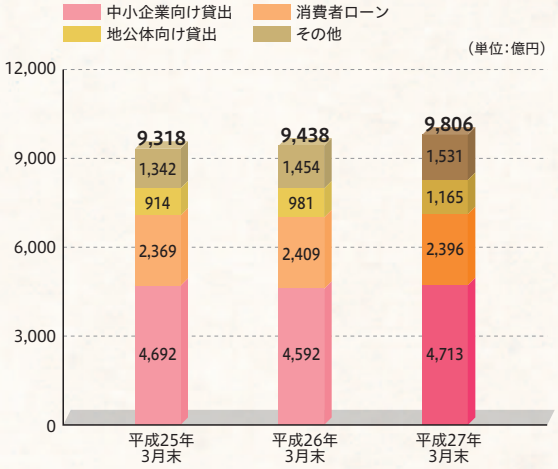
自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益を23億37百万円計上したことで、自己資本額（分子）が増加した一方で、貸出金残高増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成26年3月末比0.07ポイント低下の10.21%となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、中小企業向け貸出、地方公共団体向け貸出が増加したことなどから、平成26年3月末比368億10百万円増加の9,806億58百万円となりました。

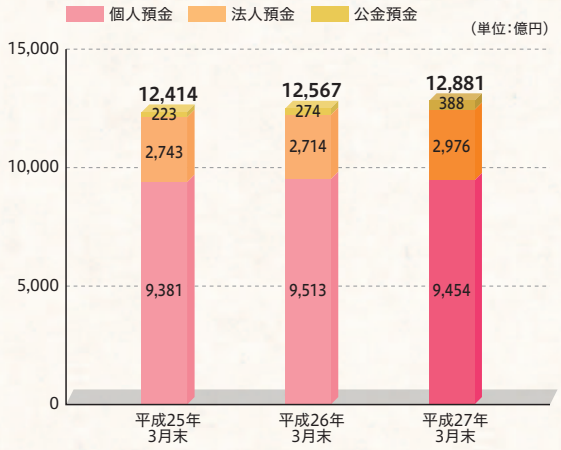


用語解説

■ **コア業務純益**　「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

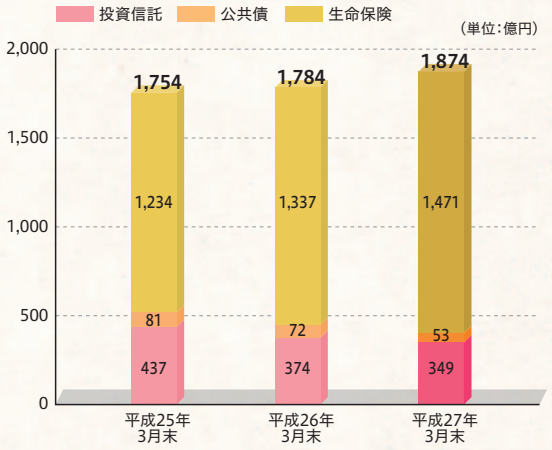
預金（譲渡性預金を含む）の状況

預金残高は、個人預金が減少したものの、法人預金及び公金預金が増加したことから、平成26年3月末比313億29百万円増加の1兆2,881億9百万円となりました。



預かり資産の状況

預かり資産残高は、安定志向にあるお客様ニーズの取込みなどにより生命保険残高が増加したことなどから、平成26年3月末比89億40百万円増加の1,874億3百万円となりました。



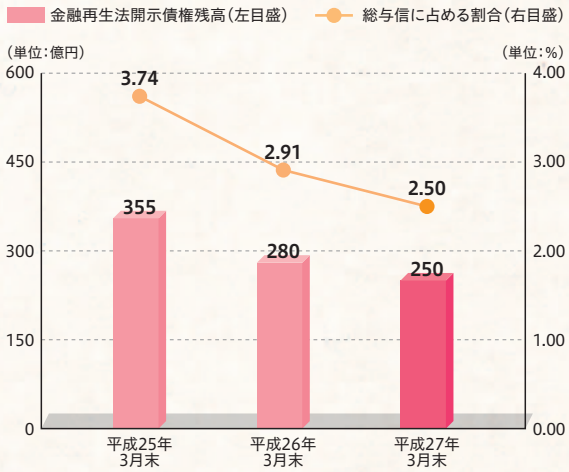
金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、平成26年3月末比29億87百万円減少の250億36百万円となりました。

総与信額に占める割合は、平成26年3月末比0.41ポイント低下の2.50%となりました。

（注）事業再生専門子会社であるきらやかターンアラウンド・パートナーズ㈱は、平成27年3月1日付で㈱きらやか銀行に吸収合併しております。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ **経常利益**　「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
■ **当期純利益**　「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。